

プログラム

| 曲目 | 作詞 | 作曲 |
|------------------------------|--------------|------------|
| 魅惑 | R. E. パリアーラ | F. P. トスティ |
| かわいい口もと | G. ダンヌンツィオ | F. P. トスティ |
| 秘密(ひめごと) | L. ステケッティ | F. P. トスティ |
| 夢 | L. ステケッティ | F. P. トスティ |
| この清らかな住まい(ファウスト 第3幕) | | C. グノー |
| 花の歌(カルメン 第2幕) | | G. ビゼー |
| 初恋 | 石川啄木 | 越谷達之助 |
| 鳴門 | 宮本村雄 | 文部省唱歌 |
| 出船 | 勝田香月 | 杉山長谷夫 |
| 君はわが心のすべて(ほほえみの国 第2幕) | | F. レハール |
| ムーン・リバー(ティファニーで朝食を) J. メルチェル | | H. マンシーニ |
| 慕情(慕情) | P. F. ウェブスター | S. フェイン |
| ==== 休憩 ==== | | |
| 誰も寝てはならぬ(トゥーランドット 第3幕) | | G. プッチーニ |
| ある日青空をながめて(アンドレア・シェニエ 第1幕) | | U. ジョルダノー |
| 理想 | C. エルリーコ | F. P. トスティ |
| マレキアーレ | S. ディ ジャーコモ | F. P. トスティ |
| 最後の歌 | F. チンミーノ | F. P. トスティ |
| 別れの歌 | E. ダロクール | F. P. トスティ |
| 君なんかもう | C. エルリーコ | F. P. トスティ |
| 私の歌 | F. チンミーノ | F. P. トスティ |
| 忘れな草 | D. フルノ | E. デ クルティス |
| カタリ・カタリ | R. コルディフェッロ | S. カルディオ |
| オーソレミオ | G. カプツォ | E. ディ カプア |

曲目解説

魅惑

貴女がくれた花に触れると、私の心は震え、その香りに私の想いを乱した。貴女の宿命的な瞳に何が宿っているのか。貴女の言葉には何が隠されているのか。貴女が私を見ると、陶酔が私を襲い、貴女が語りかけると、私は死ぬ想いだ。

かわいい口もと

小さい花のような、少し、ほんの少し色褪せたかわいい貴女の口もと、さあ、私に与えて！小さいバラのようなその口もとに似た小さな口づけを…

秘密(ひめごと)

私はその女(ひと)を愛しているが、その秘密を打ち明けられない。その女の顔をじっと見つめていたいのだけれど、心は震えて、目を上げることもできない。

夢

私は、貴方が、主に祈る聖者のように跪いている夢を見た。貴方は私の足許に身を屈めて、誓いの印となる眼差しを乞い求めている。私は、自分を誘惑する気持ちと斗い、苦しみと死を味わったが、自分に打ち克っていた。でも、貴方の唇が私の顔に触れ、心が私を裏切り、私は貴方に腕を差し伸べた…でも、それは夢で、そのすばらしい夢は消えた！

この清らかな住まい(ファウスト)

「ファウスト」は、ゲーテの劇作を題材にしたフランスのグランドオペラを代表する壮麗、華麗、幻想的な作品です。悪魔メフィストフェレスから魂と引き替えに青春を取り戻したファウストは、マルガレーテの家の前でその清らかさを讃えて「この清らかな住まいよ。ここに無垢で聖なる魂が宿る！」と、このアリアを歌います。この曲の最後の最高音は Hi-C です。

花の歌(カルメン)

カルメンを逃した罪で捕らえられていた竜騎兵伍長のドン・ホセは、解放されカルメンに会いに来ます。ドン・ホセは、以前、カルメンがくれた花を大切に持っていて、今や萎れてしまった花を見ながら「お前が投げてくれたこの花は」と歌います。

初恋

15首の短歌に曲を付けた越谷達之助の歌曲集「啄木に寄せて歌える」(昭和13年・1938年 作曲)の第一曲目です。

鳴門

鳴門公園にあるこの歌の碑の除幕式で、当時、高校生であった私が、この歌を独唱しましたのを懐かしく思い出します。

出船

作詞者の勝田香月は、18歳のとき、石川啄木を慕い北国に憧れて、北海道から秋田をめぐった際、秋田県の能代港や北海道の小樽港でこの詩の想を得たと言われています。寂しい日本海の海と雪が舞う港の哀傷・郷愁を感じさせます。

君はわが心のすべて(ほほえみの国)

私の心はすべてあなたのもの！あなたのいない所には私も在りえない。私の一番美しい歌は愛から生まれたが故に“私はあなたを愛します”とってください…と甘くしかも情熱的な歌です。

ムーン・リバー

ジョニー・マーサー作詞・ヘンリー・マンシーニ作曲。1961年公開の映画「ティファニーで朝食を」で、主演女優のオードリー・ヘプバーンが劇中で歌った曲です。

慕情

ベルギー人と中国人の血を引くハン・スーインの自伝をもとに映画化、1955年に公開され、サミー・フェイン作曲による主題歌は映画音楽史上の名作と言われます。フェインは歌劇「蝶々夫人」のアリア“ある晴れた日に”を参考に作曲したと言われています。

誰も寝てはならぬ(トゥーランドット)

美しいトゥーランドット姫の三つの謎を見事に解いたダットンの王子カラフは、姫に“私の名前を答えよ”と謎を出し、若者の名前が判るまでは“誰も寝てはならぬ”という姫の御触れを聴きながら、勝利を確信してこのアリアを歌います。

ある日青空をながめて(アンドレア・シェニエ)

フランス革命時の実在の詩人のアンドレア・シェニエを主人公にしたオペラ「アンドレア・シェニエ」の第1幕で、シェニエは、伯爵令嬢のマッドレーナに対して、本当の“愛”の素晴らしさを情熱的に伝えます。

理想

僕は天の道に沿って平和の虹のような貴女を追った。帰って来ておくれ、愛しい理想の女(ひと)よ、ひと時でも、また僕に微笑むために。そうすれば貴女の姿の中に、ふたたび僕にとっての新たな暁が輝くことだろう…

マレキアーレ

マレキアーレに月が昇ると、窓辺で私の情熱が掻き立てられる。目を覚まして…私のカルリよ…大気は甘い！

最後の歌

ニーナ、君は、明日、花嫁になるそうだね。でも、僕はまだセレナータを歌うのだ。明日、君は、もう僕たちの昔の愛のことは考えないだろう。でも、夜も昼も、情熱に満ちた僕の歌の呻きが、君に届くだろう。ニーナよ、君にあげた口づけを思い出して！

別れの歌

発つこと、それは少し死ぬことだ。愛される者にとって、それは死ぬことだ。それは常に祈りの悲しみであり、詩の最後の行だ。人はどんな時どんな所にも自分自身を少し残して行く。

君なんかもう

僕たちが逢った日をまだ憶えているかい。僕たちは愛し合い、君の傍で夢を見た。しかし君の言葉は偽りだった。僕は君の口づけを求めないし、君のことを考えもしない。君なんかもう愛していない。

私の歌

私の歌は甘いささやき。冷たい空気の中で、貴方のもとへ飛んでゆく。私の歌は溜め息をつきながら貴方の窓の所でそっと消える。貴方がひとりで眠っている今、私の歌は愛のとときめきなのだ。

忘れな草

“帰れソレントへ”の作曲者として有名なデ・クルティスの歌曲“忘れな草”をテーマにした1959年の音楽映画で、世界的テノール歌手のタリアヴィーニが出演して歌い有名になりました。

カタリ・カタリ

1911年に、大テノールのエンリコ・カルーソー捧げられたナポリ民謡の名曲。“つれない心”の邦題でも知られています。カタリとは恋人カタリーナに呼びかける愛称です。

オーソレミオ

1898年「ピエディ・グロッタ歌謡祭」において、第2位に輝きました。恋人を青空に輝く太陽にたとえ“私の太陽よ”と輝くような美しさを情熱的に表現します。